

令和6年度に取り組んだ改善策の結果

改善項目（１）留学生のSOSの迅速なキャッチ	
改善策	<p>◇令和5年度に引き続き、コーディネーターが定期的にしま親宅を訪問し、留学生・しま親・保護者と信頼関係の構築を図り、留学生のSOSをキャッチすることができた。</p>
	<p>①留学生向けアンケート（生活実態調査）の毎月実施 留学生の心身の変化やしま親または家族との関係性等について把握することができたが、困り感のない留学生にとってはアンケートが負担になっているため、実施方法や内容について改善する必要がある。</p>
	<p>②アンケート（生活実態調査）の回答をもとに留学生面談の迅速な実施 アンケート結果に不安のある留学生、前月の回答と比べ変化を感じた留学生と面談を行い、不安解消・問題の早期解決につながったが、アンケート同様困り感のない留学生にとっては面談時間で休み時間や部活動の時間を割かれることに不満を抱く場合もあり、アンケート同様実施方法等を改善する必要がある。</p>
	<p>③定期的なしま親宅訪問の実施 しま親との信頼関係の構築に努めたことで相談しやすい体制が整い、しま親の悩みに寄り添い解決策を講じることで困り感を軽減することができた。 また、学期毎にしま親向けの生活実態調査を実施したことで、留学生のしま親宅での生活を把握することができた。</p>
	<p>④保護者（実親）との連絡 面談内容や生活の様子を保護者と共有することで、子どもとのつながりを継続させることができ、保護者から受けた相談には関係機関と連携を取りながら対応したことで保護者の心的負担を軽減できた。 また、しま親留学生の保護者には不足する情報を確認するために積極的に連絡し、双方の考え等に誤りがないように努めた。</p>
	<p>⑤学校との情報共有 アンケート結果や面談内容を学校と共有し、連携を図りながら対応できた。学校へ寄せられるしま親からの相談内容は市教委が把握できてないこともあり、問題を解決するうえで重要な情報となった。 また、交流会の開催情報を学校へもお知らせすることで、交流会に参加いただくことができた。</p>

改善項目（２）留学生情報の事前共有	
	<p>◇ 留学希望者の事前見学及び面談には教育長をはじめ、学校教育課職員（教諭）、担当職員、コーディネーターも同席し、より多くの意見を反映したアセスメントを行うことができた。 また、困り感のある留学希望者の面談時には臨床心理士や太陽教室職員にも同席</p>

改善策	<p>いただき、より専門的な視点でアセスメントに取り組むことができた。</p> <p>この結果を基に、実施協議会で出た多角的な意見を取りまとめ、運営委員会で専門家や学校・地域関係者等の意見やアドバイスを取り入れ留学希望者の審査を行うことができた。</p> <p>①アセスメントシートの作成・活用</p> <p>留学タイプに合わせたアセスメントシートを作成し、面談時に実施したことで、留学希望者の目的意識の高さや学校及び家庭内での状況、留学するうえでの留意事項など関係職員全員で共有することができた。</p> <p>また、評価が点数化され受け入れの優先順位を視覚化したことで、受け入れの判断基準が明確になり、アセスメントシートの必要性を再認識した。</p> <p>②保護者・児童生徒との面談の充実</p> <p>子どもと保護者それぞれに目的意識を確認し、留學生の現状（登校状況、家での様子等）を把握することで、困り感をキャッチすることができたが、親と子の留学目的や困り感等について、より本心に近い情報を聞き取るために親子別での面談を取り入れる等面談方法について改善する必要がある。</p> <p>③留学希望者情報の事前共有</p> <p>事前見学の受け入れを学校に依頼する時には、留学希望者の困り感についても共有しながら事前見学を実施できた。</p> <p>また、事前見学を受け入れた学校へ留学希望者の印象等を聞き取り、実施協議会や運営委員会においてもその情報を活用することができた。</p>
-----	--

改善項目（３）しま親の負担感の軽減	
改善策	<p>◇令和５年度に引き続き、コーディネーターが定期的にしま親宅を訪問し、ホームステイ先での留學生の生活の様子を把握し、しま親に困り事や負担がある場合は改善に向け取り組むことでしま親支援の充実に努めた。</p> <p>①留學生情報の提供</p> <p>新規しま親留學生の情報について、しま親宅を訪問し、申込書と新規留學生の特性や困り事等について情報を共有したうえで受け入れの判断を仰いだ。</p> <p>また、新規留學生の受け入れに当たり、しま親側からの条件等を確認し留學生保護者にも伝えることで、しま親の不安軽減を図った。</p> <p>②しま親と市教委でしま親宅の状況を鑑み協議のうえ、留學生の預かり上限を設定</p> <p>次年度の留學生募集時期に留學生の預かり人数や性別についてしま親に確認し、しま親宅の部屋数や心身の負担を考慮しつつ預かり上限を設定することができた。</p> <p>今後も、留學生の受け入れに係るしま親宅の状況は定期的に確認を行い、しま親宅の現状によって適宜対応する必要がある。</p> <p>③緊急時対応マニュアルの作成</p> <p>令和５年度に作成し配付した緊急マニュアルについて、市教委としま親の共通理解を図るため、しま親交流会において説明を行った。今後は留學生用の緊急マニ</p>

改善策	<p>アルについて、交流会等留学生が集まる機会に説明し、緊急時の対応についてしま親と留学生の共通理解を深める必要がある。</p> <p>④緊急時避難場所の設定</p> <p>一時的な避難場所としてしま親間で助け合うことにより、しま親・留学生・保護者の緊急時に、互いが安心して生活できる環境を維持することができた。</p> <p>また、緊急的に受け入れ先のしま親へ、送迎や留学生のスケジュール等について随時情報を共有し、しま親の負担軽減に努めた。</p> <p>⑤しま親の名称変更</p> <p>令和6年度から「しま親」と名称の変更を行った。</p>
-----	--

改善項目（４）留学生生活の充実	
改善策	<p>◇留学生交流会、しま親交流会を定期的を開催し、運営委員会の委員・実施協議会の委員をはじめ留学に関わる学校や地域関係者にも参加いただいたことで、留学生の様子を多くの人を知ることができ、新たなつながりが生まれた。</p> <p>①しま親交流会の実施</p> <p>各学期に１回程度の開催を目標に取り組み、講習では共通した知識を学び、意見交換会ではしま親同士の苦労や工夫を語り合い、しま親としての役割を再認識できる会となった。</p> <p>【１学期】</p> <p>開催日：令和６年６月４日（火）</p> <p>内 容：吉崎市協働のまちづくり出前講座「応急手当講習」（講師 消防本部）</p> <p>参加者：しま親５名 委員２名 市教委６名</p> <p>【２学期】</p> <p>開催日：令和６年１２月１０日（火）</p> <p>内 容：意見交換会及び緊急マニュアルの説明</p> <p>参加者：しま親６名 市教委６名</p> <p>【３学期】</p> <p>開催日：令和７年３月２６日（水）</p> <p>内 容：令和７年度吉崎市いきっこ留学制度についての説明会</p> <p>参加者：しま親 市教委</p> <p>②留学生交流会の実施</p> <p>各学期に１回程度の開催を目標に取り組み、小学生は交流会の参加を重ねるたびに仲良くなる様子が見られたが、中学生は参加者が限定的になっており他中学校の留学生との交流ができなかった。</p> <p>次年度は中学生の参加者が増えるよう交流会の内容を検討する必要がある。また、留学期間満了後も引き続き吉崎市の学校に通学する留学生も増えているため、留学終了後も参加できる仕組みづくりが必要とされている。</p> <p>【１学期】</p> <p>開催日：令和６年４月７日（日）</p>

改 善 策	<p>内 容：令和6年度吉崎市「入市式」</p> <p>参加者：吉崎高校新規留学生3名 保護者 吉崎高校関係者 吉崎市いきっこ留学新規留学生4名 保護者 吉崎市関係者 しま親3名（高校1名 いきっこ1名 共通1名） 地域関係者2名 委員9名 学校4名 県教委1名 在籍留学生4名</p> <p>開催日：令和6年5月19日（日）</p> <p>内 容：「いきっこ留学生 集まれ！」（筒城浜でゲームやクイズ、砂浜歩き等）</p> <p>参加者：留学生8名（しま親2名 孫戻し1名 親子5名） しま親2名 保護者6名 委員6名 学校2名 地域1名 市教委5名</p> <p>開催日：令和6年7月14日（日）</p> <p>内 容：貝細工体験・B&G 職員による海の環境に関する紙芝居 （吉崎出合いの村 晴天時はシーカヤック体験）</p> <p>参加者：留学生16名（しま親6名 孫戻し3名 親子7名） しま親3名 保護者5名 委員6名 市教委6名（内2名 B&G）</p> <p>【2学期】</p> <p>開催日：令和6年12月22日（日）</p> <p>内 容：「郷土料理ひきとおしとおにぎりを作ろう。かるた等の正月遊びを楽しもう」</p> <p>参加者：留学生12名（しま親6名 孫戻し2名 親子5名） しま親1名 保護者4名 委員5名 ヘルスメイト4名 市教委7名</p> <p>【3学期】</p> <p>開催日：令和7年3月9日（日）</p> <p>内 容：令和6年度吉崎市いきっこ留学修了式</p> <p>参加者：留学生 しま親 保護者 委員 学校 関係地区代表 市教委</p>
-------------	---

その他	
改 善 策	<p>①吉崎市いきっこ留学実施協議会の設置</p> <p>吉崎市いきっこ留学制度運営委員会（市の附属機関）の審査機関としての役割をより明確にするため、令和6年度から「吉崎市いきっこ留学実施協議会」を設置し、いきっこ留学の運営において繋がりを求められている地域、関係機関（子育てや健康面）学識関係者を委員に登用した。</p> <p>また、交流会を通じて留学生と関わることで、個々の留学生に応じたご意見等をいただき、留学制度の運営に反映することができた。</p>
	<p>②運営委員会委員に専門家やを登用</p> <p>臨床心理士や社会福祉士といった資格を持った委員に登用し専門的知見に基づいて留学希望者を審査することができた。</p>